群教セ	G08 － 03
	令元.272 集
	商業－高

商業科目「簿記」における自ら学び、課題の解決に主体的に取り組む生徒の育成

――事前学習（ｅ-ラーニング教材）による ワークシートの活用とグループ学習を通して――

特別研修員　平野　夏樹

Ⅰ　研究テーマ設定の理由

県立学校教育指導の重点（商業の目標－学習指導要領に係る配慮事項）には、「資格取得や競技会へ積極的に挑戦するなど、明確な目標を掲げることで生徒の意欲を喚起し、学習を通して知識と技術の定着を図るとともに、知識と技術を活用する上で必要となる思考力、判断力、表現力等を育成する。」とある。

研究協力校（以下協力校）では、生徒が各種の資格取得に対して目標をもち、真面目に取り組み成果が出ている。しかし、教師主導の一斉指導が比較的多く、資格取得を中心とした学習になっている傾向がある。そのため、生徒は演習問題を解くことはできるが、なぜその処理を行ったか等の説明することが苦手で、自分の考えを伝えることに消極的である。また、協力校では、様々な教科の動画を視聴できるｅ－ラーニング教材を利用できる環境を整備しているが、十分に活用できていない状況にある。

そこで、生徒が校内や自宅等で、事前学習としてｅ－ラーニング教材（簿記の説明動画）を活用し、事前学習で身に付けた基礎的・基本的な知識を授業で定着させ、実務を想定した発展的な学習内容にチャレンジすることで、課題の解決に主体的に取り組める生徒を育成したいと考え、本テーマを設定した。

Ⅱ　研究内容

１　研究構想図

２　授業改善に向けた手立て

事前学習で身に付けた基礎的・基本的な知識について確認し、実務を想定した発展的な学習についてグループ活動を通して、主体的に取り組むことができる生徒を育成するために、次の三つを手立てとして考えた。

手立て１：事前学習と授業をつなぐワークシートの活用
- 事前学習（ｅ－ラーニング教材の動画を視聴する）の内容を書き込めるワークシートを作成し、活用する。
- 授業の導入時に、ワークシートの内容についてペアで確認し合う。

手立て２：基礎的・基本的な知識を定着するためのグループ学習
- 事前学習で身に付けた知識を定着させるための練習問題をペアやグループで解く。
- グループごとに机間支援をし、生徒主体で教え合えるようにアドバイスをする。

手立て３：発展的な学習内容にチャレンジするグループ学習
- 発展的な学習内容について、個人で考える。
- 個人の考えをグループ内で順番に説明し、共有する。
- グループで考えたことを発表し、クラス全体で共有する。

これまで行ってきた一斉指導が中心の授業展開では、生徒一人一人の理解度に応じて、小テストによる理解度の把握や放課後の補習等を行ってきたが、対応する時間にも限界があり、指導の難しさを感じていた。ｅ－ラーニング教材の動画視聴は、生徒が自宅でコンピュータやスマートフォンを利用して、生徒個々のペースで取り組むことができる。しかし、ｅ－ラーニング教材の動画を視聴するだけでは、主体的に学び続けることができる生徒が少ない。動画の視聴と学校の授業を接続するための手立てとしてワークシートを活用し、生徒が主体的に取り組むことができるようにペアやグループ学習を取り入れる等の指導の工夫が必要である。

Ⅲ　研究のまとめ

１　成果

○　ｅ－ラーニング教材の動画視聴時に記入できるワークシート（学習内容のポイントを確認できるように作成）により、授業後のアンケートの記述からは、内容を整理して授業を聞くことができた」「動画を見て疑問に思ったことをワークシートにメモをしていたので、授業で確認できた」など、学習に対する主体的な取り組みを示す生徒が多くなった。

○　基礎的・基本的な問題をペアやグループで解かせることで、課題に対して主体的に取り組む様子が見られた。また、生徒同士で教え合う中で出てきた疑問や質問は、クラス全体で共有し、解決することで、一斉指導の場面を減らすことができた。

○　学習内容が発展的であるため、話合いの停滞が予想されたので、学習課題の内容を確認した後に解答を提示し、計算の過程を考えさせた。個人で考える時間を設定し、ワークシートに記入した考えをグループ内で発表させることで、互いの考えを共有し、主体的に教え合う学習活動につながった。授業時間以外にも質問をする生徒が多くなり、主体的に学習に取り組むようになった。

２　課題

○　他教科の予習や復習もあるので、事前学習が生徒の大きな負担にならないように、教員同士で学習内容の調整が必要である。

○　グループ学習では、生徒の主体的な取組を促すため、進行役の役割を１時間ごとに変更した。各グループの生徒全員が進行役を経験し、スムーズな進行ができるようになるため、繰り返しの指導が大切である。

実践例

１　単元名　「特殊な商品売買の取引」（第１学年・２学期）

２　本単元について

本単元では、特殊な商品売買の取引として、割賦販売・委託販売・未着商品売買・試用販売・予約販売について学習する。これまで、基本的な仕訳や補助簿の作成、決算整理や財務諸表の作成といった簿記の一連の流れについて学習してきた。本単元からは、これまで身に付けた知識を基に、特殊な商品売買についての処理や特殊な手形の取引といった複雑な取引の処理について学習する。

特殊な商品売買については、取引の時点で仕訳が終わらないこと等、処理が複雑になることから、仕訳の方法だけでなく、仕訳の必要性やその意味を含めて理解する必要がある。また、取引から決算までの一連の流れを常に意識させることが大切である。特に、特殊な商品売買の取引中に決算が行われることについて、問題演習等で扱うことはない。実社会では当たり前に行われている処理について、個人やグループで考え、互いに説明することにより、本単元の学習内容の理解を深めることができる。

以上のような考えから、以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	割賦販売・委託販売・未着商品売買・試用販売・予約販売の意味を明らかにし、それぞれの記帳法を習得させる。	
評価規準	関心・意欲・態度	特殊商品売買の処理をどのように行うのかについて関心をもち、自ら問題演習に取り組もうとしている。
	思考・判断・表現	特殊商品売買の処理について考え、判断できる。また、理解した内容について説明できる。
	技能	特殊商品売買の処理について基礎的・基本的な技術を身に付けている。
	知識・理解	特殊商品売買の処理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
過程	時間	主な学習活動
課題把握	第１時	・特殊商品売買の処理の特徴について理解する。
課題追究	第１時 ～ 第４時（本時）	・特殊商品売買の基本的な処理について、事前に学習した内容（動画の視聴、ワークシートへの記入）について、ペアで確認し、教え合う。 ・特殊商品売買の基本的な処理について、個人で基本問題を解き、グループで教え合う。 ・特殊商品売買の発展的な処理（決算整理が関係した場合）について、学習課題に取り組み、個人やグループで考え、グループ内で説明し合う。 ※割賦販売（第１時）・委託販売（第２時）・未着商品売買（第３時）・予約販売（第３時）・試用販売（第４時）
まとめ	第１時 ～ 第４時（本時）	・特殊商品売買の発展的な処理（学習課題）について振り返る。

３　本時及び具体化した手立てについて

本時は、特殊商品売買の単元で全４時間の第４時に当たる。試用販売の取引については、ｅ－ラーニング教材の動画視聴で身に付けた知識を基に、仕訳を理解させ、基礎・基本を定着させた。発展的な学習内容では、決算時に販売されていない試用販売の商品について、売上総利益の計算過程で、なぜそうなるかを個人やグループで考えさせ、グループで相談しながら課題を解決するようにした。グループは４名で編

成し、各グループで簿記を得意とする生徒を中心として学習を行った。また、生徒の主体的な取組を促すため、進行役の役割を１時間ごとに変更した。同時に一人の生徒に負担が偏らないように配慮をした。

本研究では、主体的に学習課題に取り組むことができる生徒の育成をねらいとしており、具体的には次の三つの手立てを設定した。

手立て１「事前学習と授業をつなぐワークシートの活用」

・事前学習（ｅ－ラーニング教材の動画を視聴する）の内容を書き込めるワークシートを作成し、活用する。

・授業の導入時に、ワークシートの内容についてペアで確認し合う。

手立て２「基礎的・基本的な知識を定着するためのグループ学習」

・事前学習で身に付けた知識を定着させるための練習問題をペアやグループで取り組ませる。

・生徒主体で教え合うように各グループを支援する。

手立て３「発展的な学習内容にチャレンジするグループ学習」

・発展的な学習内容について、個人で考えさせる。

・個人の考えをグループ内で共有させる。

・グループで考えたことを発表し、クラス全体で共有させる。

４　授業の実際

(1) 導入

導入では、事前学習で記入したワークシート（図１）の内容について、ペアで確認を行った。机間支援を行い、生徒の様子を観察しながら指導を行った。疑問点を話し合っていた生徒が見受けられ、主体的な学習活動となった。その後、ワークシートのポイントを解説した。問題練習では、生徒が間違えやすい部分である仕訳の金額について、「売価」と「原価」のどちらを基に仕訳をするのかを発問し、事前学習の知識の定着を図った。全員が挙手をし、「売価」を基に仕訳することを確認した。ワークシートを活用することにより、事前学習と授業をつなぐことができた。

〔事前ワークシート〕

試用販売とは…

得意先に商品を　一定期間試用　してもらい、その結果得意先から

買い取りの意思表示　を受けた時に　売買契約が成立　する販売形態です。

売上の計上は、　得意先からの買い取りの意思表示を受けた時

(1)　記帳方法

使用する勘定科目　①　試用販売契約

②　試用仮売上

試用販売という特殊商品売買取引が行われたとき、　備忘記録　を残す。

この2つは　対照勘定　と言われ、　財務諸表　に表示されません。

(2)　仕訳

①　試用のため発送した仕訳　　原価￥80,000　売価￥100,000　売価　を使う

借　方	金額	貸　方	金額
試用販売契約	100,000	試用仮売上	100,000

図１　事前ワークシート（一部）

(2) 展開

展開では、試用販売の練習問題（３問の仕訳問題）について取り組ませた。教師は支援者になり、グループで教え合いながら問題を解けるよう、各グループを支援した。グループ学習を進める中で、生徒から「売上勘定の相手勘定科目は、なぜ売掛金勘定になるのですか？」「解答は２行の仕訳だけど、３行では不正解ですか？」の二つの疑問が出され、この疑問を全体で共有することで、仕訳の理解を深めさせることができた。また、各グループの進捗を把握するためのボードを活用した（図２）。これにより、生徒はグループ全員が理解するまで、自分の考えや意見を伝え合い、教え合うなど、グループで協力して課題を解決しようとする活動につなげることができた。

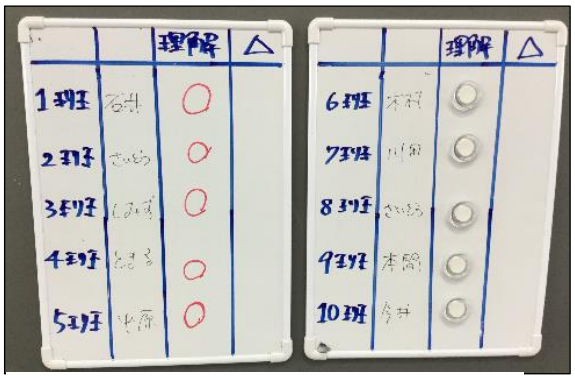

図２　理解度の確認用ボード

発展的な学習課題への取組については、グループで協力して解決することを指示した。グループの話合いが停滞する可能性があったため、事前に次の二つを指示した。「個人で考え、自分の考えをワークシートに記入する。分からない部分や疑問を書いてもよい」「仕訳の金額をあらかじめ教えるので、なぜ、そ

の金額になるのか？計算過程を考えてみよう」この指示をした後に、個人で考える時間を５分間設定した。売上総利益の計算過程と計算結果について、自分の考えをまとめて書いたワークシートを基にグループ内で発表し、解決に向けて話合いを行わせた（図３）。

グループの考えをワークシートにまとめ、各グループに発表をさせた。各グループの考えと自分のグループの考えを比較し、グループのワークシートを修正した（図４）。各グループから出された疑問点の解説や補足説明を教師が行うと、生徒は積極的にワークシートに記入していた。

図３　自分の考えを発表し合う様子

図４　ワークシート

(3) まとめ

本時の振り返りとして、学習のポイントを整理した。毎時間に行っている自己評価（「①試用販売の仕訳を理解できたか」「②売上総利益の計算は理解できたか」「③グループで協力できたか」「④説明することができたか」）では、仕訳を理解したという生徒が多かったことが分かる（図５）。グループで協力して問題を解決したことにより、知識・技術が定着したと実感した生徒が多く見受けられた。

○　自己評価（ふりかえり）

①　試用販売の仕訳を理解できたか？		
4	理解した説明できる	コメント 理解できた。問題をよく読んで金額を間違えないようにしたい。 グループのメンバーにプリンを見ながら説明できた。
3	プリントを見れば大丈夫（説明できる）	
2	友達と確認すれば大丈夫	
1	理解できない解説が必要	

図５　自己評価　生徒の記述

５　考察

本研究では、ｅ－ラーニング教材を事前学習として活用した。その理由として、問題を解くことはできるが、なぜその処理を行ったか等の説明をすることは苦手であり、簿記の処理が実社会でどう行われているか考える機会が少ないと感じたからである。基礎的・基本的な知識を定着させ、更に発展的な学習課題に意欲的に取り組むためには、生徒が自主的に学んだ既習事項を基に、学習の理解が深まるような授業づくりが必要である。ｅ－ラーニング教材の活用は、資格取得と同様に生徒が主体的に学ぶための手立てとして有効な学習ツールであると考える。

授業の展開では、ペア学習やグループ学習を取り入れた。生徒に、実社会でどう行われているか考えさせながら演習問題の答えを導かせていくことに有効であった。グループ内で生徒が主体的に疑問について発言し、共有することで、基礎・基本の知識の定着に繋げることができたと考える。また、学習に対して主体的に取り組ませるためには、生徒の疑問を基に授業を展開し、クラス全体が感じていることを共有し考えさせることが、生徒の主体的な学びに結びつくことを実感した。

発展的な学習を行う場合は、学習内容の難易度により、個人やグループの意見や考えを出すことができず、話し合いが停滞することがあった。与える課題に応じて解答を求めさせることを目的とせず、事前に解答を示し、解答を導く過程を考えさせることにより、個人やグループの意見や考えを積極的に伝え合うことができ、グループ内で結論を導き出すことができた。事前学習と授業を連携させることで、生徒の主体性が高まってきたが、ｅ－ラーニング教材を予習・復習として活用する教科が多くなると、生徒の負担が大きくなることが考えられる。カリキュラムマネジメントの視点を重視し、学校全体で有効活用できるようにしたい。本研究を今後も継続し、生徒が主体的に学ぶことができる授業づくりに努力して行きたい。